

八丈島 水産だより

6月号



ガクアジサイ



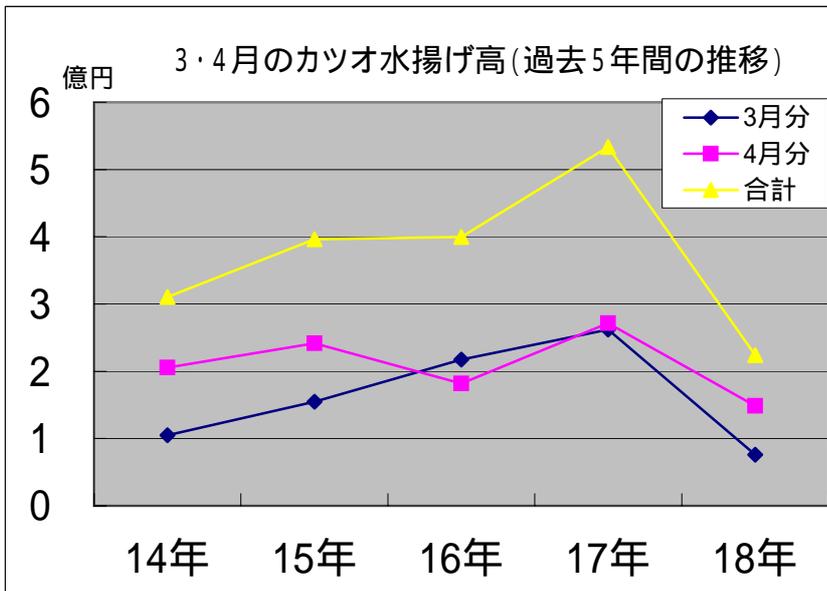
カツオ水揚げ風景

八丈島では、曇り空で蒸し暑い日が続くようになり、梅雨入り間近です。湿気が多く、過ごしにくい季節ですが、野山には野生のガクアジサイが満開になり、気分をまぎらわしてくれます。

ガクアジサイは八丈島では、「閑所芝」(カンジョシバ)と呼ばれ(閑所とはトイレのこと)、今のように紙が豊富でなかったころ、トイレトーパー代わりに使用していました。

漁業は、カツオひきなわ漁がピークを過ぎ、キンメダイやメダイを対象にした底魚一本釣りへ変わっていきます。

今春のカツオ漁



カツオ

八丈のカツオは漁獲金額の約5割を占める重要な魚です。また、カツオの漁獲のほとんどが3月、4月に集中しています。八丈島の漁師さんは、3～4月に年間の半分の水揚げをしているのです。ところが今年の漁獲は、昨年と見比べると4割にしか及びませんでした。これは八丈島の漁業のとても深刻な問題です。

春トビから夏トビへ

トビウオ漁は、春トビから夏トビに変わりました。春トビ(ハマトビウオ)は、全長が50cmにもなる大型のトビウオです。一方、夏トビと呼ばれるものには、「アカトビウオ」、「アヤトビウオ」、「オオナツトビ」、「オオメナツトビ」などが入り、サイズは春トビより小さくなります。漁法は、まき刺し網漁となります。そして、夜の操業ばかりではなく、昼間の操業に変わっていきます。



トビウオのサイズ測定



トビウオ



春トビの姿